

令和4年度第8回 感染症発生動向調査部会
議事要旨

1 日 時 令和4年11月16日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 小会議室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長)
大西 秀典(岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 教授)
澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授)
加藤 達雄(国立病院機構長良医療センター 呼吸器内科統括診療部長)
オブザーバー: 市原 拓(岐阜市保健所 感染症対策課 感染症対策係長)
事 務 局 : 石塚 敏幸(感染症対策推進課 感染症対策第二係長)
山田 涼子(感染症対策推進課 技師)
今尾 幸穂(保健環境研究所 疫学情報部長)
岡 隆史(保健環境研究所 主任専門研究員)

4 議 題 (進行:澤田委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) その他(感染症対策推進課から)

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○梅毒について

- ・今月も報告数が増加しており、引続きその発生動向を注意した方が良いと思う。

○ロタウイルスワクチン定期接種の評価について

<事務局から>

- ・2020年は3月から6月にかけてロタウイルス感染症の季節性流行がみられず、同年10月から開始された定期接種前に何らかの抑制効果が働いていたことが考えられる。また2020年の年頭は新型コロナウイルス感染症の国内への流入が危惧されていた時期であることから、新型コロナウイルス感染症への予防対策などがこの抑制効果に影響している可能性が考えられる。それ以降ロタウイルス感染症の発生はほとんど報告されていないが、その理由としてロタウイルスワクチンの定期接種や新型コロナウイルスへの感染予防対策など、複数の効果が影響していると考えられる。

<委員から>

- ・2020年は、ロタウイルス感染症に限らず感染性胃腸炎の発生報告も著しい減少がみられ、社会全体のコロナ対策など、要因として様々なことが考えられる。現状で感染性胃腸炎の発生報告数は新型コロナ流行前の状況に戻りつつあるようだが、ロタウイルスワクチンの定期接種を評価するのは、もう少し時間を置いてから行った方が良いのではないだろうか。